

昭和45年度  
(1970)  
第10回大会

男子優勝 札幌西 女子優勝 小樽商業

【 専門委員長 寸評 】

団体戦男子では、個人シード1の佐伯。シード2の柴田を擁し、安定したチームカをもっている札幌西高の優勝は順当なところであり、当然と思われるが、いろいろな問題を抱えている現在のクラブ活動において2年連続は立派であろう。準優勝の札幌南高は2年中心のチームでもう一息のところであり、惜しかった。そのほか小樽商業、小樽潮陵・旭川北高が善戦していた。

女子では昨年通り静修高と小樽商業との決勝戦になった。シード1の西潟とシード2の斎藤を主力とする小樽商業が無難に勝つのではないかとされていたが、西潟が佐々木に苦杯し、力のこもった決勝戦であった。結局この試合ではダブルスが勝敗を決定した一戦であった。そのほかでは札幌西高、札幌南高、潮陵高、札幌東高が善戦していた。男女とも全般的にレベルがあがり良い試合が多かった。

個人戦男子については、前年度より安定しストロークで定評がある佐伯(札幌西)のシングルの優勝に落ちついた。逆クロスから果敢にネットプレーに出てポイントを取る作戦など、粘ってもよく攻めてもよい彼のテニスの前に敵は居ないようであった。準優勝の今井(札幌南)は準々決勝でシード2の柴田と対戦し、壁のように安定したロブとねばりと精神力で柴田を下したのは賞讃されるべきであろう。1セットの試合であったが2時間もかかる大試合であった。攻めるテニスよりも、安定したストロークの基礎と、ねばりと精神力がいかに大切であるかをわれわれに教えてくれる一戦であった。代表決定戦では、村山(札幌南)が体力と精神力で小島(札幌南)を下した一戦も印象に残る良い試合であった。このほかシングルスプレーヤーとしては杉村(旭北)松尾(潮陵)が善戦していた。杉村は早く自分のテニスを身につけてほしい。松尾は疲れが見えバテてしまったのは残念である。ダブルスではシード3の佐伯・柴田(札幌西)がシード1の小島・田中(札幌南)を破り優勝した。これは個人戦シード順からいって当然のことかも知れない。この試合は第1セット6-1と、力的に佐伯・柴田組がリードしたが、第2セット白熱し6-4佐伯・柴田組の勝利に終わったが、見ごたえのあるダブルスらしい試合であった。この試合では、シングルスに比べ、

ダブルスは凡ミスが多く見るべき試合はあまりないようであった。ボレー、スマッシュにコントロールのある安定した力をつけてほしいと思う。

女子では、シード2の斎藤(樽商)がシード1の西潟(樽商)をよく押さえ優勝した。昨年間では2人は同じぐらいの力であったが、練習と研究熱心と体力によって西潟を圧倒した感があった。代表決定戦では、3年になって長足の進歩をなした佐々木(静修)が、シード4の杉沢(札南)を破った鈴木を下して代表権を得、静修の面目を保った。この試合、第2セット目、鈴木がリードしこのセットを取りファイナルになるかと思わせたが、疲れのためフォームをみだし、8-6と覆され、佐々木に代表権をゆずった。この外では斎藤、森越、浜田(以上旭北)、叶内(札西)が善戦していた。ダブルスでは、初め危ない勝ち方をして来て西潟・斎藤がファイナルで、結局、村田・鈴木(樽商)を破り優勝した。西潟・斎藤組の善戦はダブルスの練習不十分ということもあろうが、フォーメーションにも問題があるように思う。この点ダブルスのうまみとしては村田・鈴木に分があるようであったが、ファイナルセットで村田がストロークに安定を欠き、敗れたのは惜しい一戦であった。この外、松田・柿崎(札東)、曾我・北山(静修)、斎・叶内(札西)が善戦していた。特に松田・柿崎組は優勝した西潟・斎藤にマッチポイントを取っていたが7-5で敗れたが力の入った良い試合であった。女子のダブルスはスマッシュ、ボレーが多少安定して来ておりダブルスらしい試合はこびが見られ、全体としてレベルが上がって来ているように思われた。

この大会を振り返って見ると、男子では、たゆみない練習と努力によって連続団体優勝を得た西高の力が光っていたが、また基礎を着実に身につけて来ている南高勢力の台頭を見のがせないだろう。女子では今回は小樽商業の一方的な勝利に終わった感があるが、これも日頃の練習の成果であろう。全般的にはまだ基礎のグランドストロークができておらず、北海道の前途の多難を思わせた。グランドストロークが甘いので特に男子では、ネットプレーに無理がかかってミスがめだっている。またダブルスでは、スマッシュ、ボレーに安定感がなく、ミス負けが多いようでは試合にならない。練習によって、この技を早く身につけて、しっかりしたプレーをしてほしいと切に感ずるしだいである。これには日常の練習をきびしくして、一日一日と積み重ねて行く以外に方法はないであろう。

終りに、雨天で試合が延々になり、当番校に多大のご迷惑をかけましたが、最後まで良い試合ができたことに対し、ここでお礼を述べさせていただきます。

### 【全国大会】

男子団体1回戦、札幌西は、宮崎商業のNo.1が複にまわってポイントを失ったが、単は一方的な勝利であった。2回戦、秋田商業。複は凡ミスの多い白熱戦だが、ボレーの良さでようやく札幌西は勝ちをおさめた。単は一方的で、秋田は手が出なかった。3回戦、札幌西1-2慶応志木(埼玉)。慶応はロブで西高のフォーメーションをくずし、複をとる。単は慶応、橋本のスピードに乗ったボールに佐伯ラケットが合わず、ずるずるとゲームを落とす。柴田は気力の勝利。

女子団体一回戦 小樽商業1-2精華(静岡)、複村田は足の故障のためプレーが冴えず、ずるずると勝ちをゆずる。S1西潟、スピードはあるが半田の大きいボールにてこずり苦杯する。斎藤はまず楽勝というところか。

個人戦男子シングルス。佐伯(札西)2回戦に勝ち残り、東京石神井の高野と対戦する。1

セットようやくとるが、以後はバテ気味でラリーが冴えず無念。男子ダブルス佐伯・柴田組(札西)は2回戦に進出したが、太田・大庭組(浜松工業)の太田は単準優勝、スピードのあるストローク冴え、札西調子あがらず苦戦。

女子シングルス、1回戦で佐々木(静修)は静岡東の小泉に7-5と気力の勝利。西潟とともに2回戦へ。2回戦、佐々木は第1シードの中谷の深いボールに封じられ苦杯。西潟は愛知高蔵女子商業の小川のストローク崩れず調子が出ずに敗れる。女子ダブルス1回戦、斎藤・西潟(樽商)4-3とリードするも、あせりで以後ゲーム取れず、池田・松岡(松山東)に惜しくも勝ちをゆずる。

( 専門委員長 鳴海 幸男 )

## 優勝のよろこび

男子 札幌西高等学校

われわれ札幌西庭球部は、カンカン照りの真夏の太陽の下、そして冬の体育館での早朝練習と、四季を問わず全道大会・全国大会目指して、毎日黙々と練習に励んできました。あけてもくれてもテニスばかりで、時にはほかのことをしたいと思うような時何度もありました。でも授業が終了すると、ぼくの足は自然とコートの方へ向かうのです。テニスはそれだけぼくたちを引きつける何かがあります。

全道大会は6月20日から旭川富士ベトンコートで開かれました。あいにく雨が降り続いて競技もとぎれとぎれとなり、日程も延長されましたが、ぼくたちは男子団体・シングルス・ダブルスの3タイトルを独占することができました。決勝の札南との苦しい試合に勝って団体優勝の瞬間、ぼくは喜びというより何かほっとした気持ちになりました。もちろん初めから優勝をねらっていたせいもあるでしょうし、また昨年優勝した時、全国大会に出場して1回戦で惜敗した悔しさから、まだ全国大会があると思ったからかもしれません。しかし翌朝、新聞の「西高優勝」の活字を見てやはり喜びがこみ上げてきました。他のみんなも同じ気持ちだったと思います。スポーツをやる以上はやはり勝たなくてはだめだと思いました。趣味程度にテニスをやって試合に参加するという人もいると思います。それはそれでいいと思います。でもぼくとしては、自分の限界まで練習をして試合に臨みそして勝つ、そこにこそほんとうの喜びがあると思います。1年間をふりかえってみて、練習の内容、計画性に乏しかったことなどいろいろ反省すべき点は残りましたが、とにかく優勝できて本当によかったと思いました。

( 札幌西高校 佐伯 博史 )

## 優勝のよろこび

女子 小樽商業高等学校

昭和45年6月21日、毎日の猛練習の成果がついに実った。

去年は残念ながら2対1で敗れ2位に終わった。その時のくやしさが私達のテニスを一

層燃えさせたのだ。今年こそはと仲間と誓い、助け合って練習に励み、ただ”優勝”のみを考えてきた。

ダブルスの組が調子良く、相手校の札幌静修に勝った時、私達は優勝への第1歩を踏み出したのだ。シングル1は残念ながら負けた。そして優勝のかかるシングル2の戦いを、私達は期待をかけて見守ったのだ。最後の1ポイントは相手のミスで試合が終わった。「勝った！」との思いと同時に、張り詰めた気持ちがやわらいでみんなの顔に笑いが浮かんだ。そして全員で握手をして喜びあった。しかし、予想していたものとは違う感じだった。あとから全員に聞いて見ると「まだ実感がわかない」と口をそろえて言っていた。どうしてなのだろうか。もっと素直に涙を流して喜びあってもいいのではないかとさえ思われた。しかし、旅館に帰って、夕食後に優勝カップでコーラを飲んで優勝をわかちあう時みんなの大きい笑い声が響き、その中を並々とつがれたカップが先生へ部長へと次々手渡されていった。その時こそ全員で優勝を喜びあった最初の時だった。

今思えば優勝までの道は苦しかったけれど、あの時受けた感じは何とも言えぬ良さがあった。この記憶は私達の心にいつまでも残る事だろう。

全国高校総体（第60回全国高等学校庭球選手権大会）

兵庫

8月24日～30日

香栞園テニスコート